

平成 15 年 10 月 9 日

豊島区を安全で住みやすい町にするために

第 12 回地域安全豊島区民大会開催

本日 9 日（木）、地域と行政が一丸となって安全で住みよい街づくりを進めようと、第 12 回地域安全豊島区民大会が、豊島公会堂（東池袋 1-19-1）で開催された。警察により治安回復元年と位置づけられた今年の大会には、竹花東京都副知事も駆けつけた。主催：豊島区、目白・池袋・巣鴨警察署他

近年多発している不良外国人等による強盗や空き巣などの犯罪や、少年犯罪の低年齢化・凶悪化等、犯罪の質と量の変化による治安の悪化は、繁華街池袋を抱える豊島区でも大きな問題となっている。東京都においても、治安対策を最重要課題と位置づけ、竹花副知事を本部長とする緊急治安対策本部を立ち上げるとともに、地域との連携による治安対策の取り組みを推進している。こうした中、今年 10 月 1 日には、「東京都安全・安心まちづくり条例」を施行。9 月 17 日には、都と新宿、渋谷、豊島の各区長などによる「治安対策代表者会議」が開かれ、不法滞在の外国人や少年犯罪に一致して取り組むことが確認された。

このように街の治安回復に対する機運が一段と高まるなかで開かれた今回の地域安全豊島区民大会は例年以上の大きな盛り上がりを見せた。平成 4 年の暴力団対策法施行以来、暴力団追放を目的として毎年開かれてきたが、今年の大会では暴力団が関係する犯罪にとどまらず、これら新しいタイプの犯罪に、地域社会と行政が一丸となって取り組むことが宣言された。（宣言文別紙参照）

午後 1 時から開かれた式典では、高野之夫豊島区長が「区民全体が他人事ではなく、自分たちの問題として考えていけば犯罪はなくなる。地道な取り組みが必ず実を結ぶと信じている」と挨拶を行なった。つづいて挨拶を行なった竹花副知事は、29 年前池袋警察勤務時代のエピソードを交えながら「そのころと比べ、池袋も大きく変わったが、それに伴い犯罪の形態も大きく変わった。しかし、まずは一人一人が安全に対する意識を高めることが大切」と話し、「警察だけでできる事には限界がある。パトロールなどの地域の地道な活動が重要。東京の治安は豊島区から始まるといった取り組みを期待します」と締めくくった。

参加者たちはそれぞれ、地域の治安回復に対する決意を一層新たに示した様子だった。

詳細：区民活動推進課